

第 5 章

生活基盤が整った住みやすいまち



【5-1 道路整備】

- 5-1-1 国道・県道等の整備促進
- 5-1-2 道路網の整備と維持管理（町管理道路の老朽化インフラ対策の推進）
- 5-1-3 橋梁の整備・維持管理

【5-2 公共交通】

- 5-2-1 ふれあいバスの利便性向上
- 5-2-2 公共交通体系のあり方検討

【5-3 移住・定住】

- 5-3-1 移住・定住の発信・交流促進（情報発信）

【5-4 自治体DX・通信】

- 5-4-1 自治体DX・電子自治体の推進
- 5-4-2 情報通信基盤の整備・運用

◆基本目標の概要説明

道路・橋梁の維持管理や情報通信基盤の整備により、安心して暮らせる生活基盤を整えます。また、買い物や通院などに便利に利用できるよう公共交通の体系を見直すとともに、デジタル技術等を活用した行政サービスの向上や効率化を図り、だれもが暮らしやすいまちを目指します。

①現状と課題

前期では、道路・公共施設の維持管理などの生活に不可欠な基盤づくりが着実に進められてきました。安心して暮らせる環境が維持されていることは、町の安定した生活基盤を支える重要な成果です。また、人口減少社会に対応するため、自治体DXによる利便性向上を図り、移住・定住者の増加が必要です。一方で、住民意見やアンケートからは、公共交通機関の充実に関する要望が見られます。こうした声を踏まえ、暮らしの質の向上と移動しやすい環境づくりが求められています。

②後期の方向性・今後の取組

生活利便性と移動のしやすさを高め、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを進めます。特に、買物・飲食、交流環境の向上に重点を置きます。

<今後の取組>

- ・道路・橋梁の維持管理及び外灯の充実
- ・夜間の移動が安心してできる環境整備
- ・公共交通の利便性向上と最適化（移動手段の確保）

③参考データ

区分	内容	出典
前期計画進捗	平均進捗：96% 全体的に良好。公共交通で住民ニーズに応じた改善がポイント。	前期進捗管理
住民意見（良いところ）	【意見】「道路が整備されている」	アンケート／町民会議
住民意見（課題）	【意見】「夜が暗くて移動が不安」「ふれあいバスが利用しにくい」	アンケート／町民会議／中高生WS



5-1 道路整備

5-1-1 国道・県道等の整備促進



●概要

広域的アクセスの一層の向上に向け、関係自治体と連携し、美作岡山道路の整備を関係機関に働きかけます。

国道179号・429号の歩道整備及び一部改良（交差点）を関係機関に働きかけます。

県道について、歩道整備等を関係機関に働きかけます。

●後期計画における重点項目

美作岡山道路については、期成会を構成する関係市町と協力して、早期完成に向け引き続き関係機関に要望活動を実施します。

植月北地内の国道429号と勝央中核工業団地方面との交差点の一部改良の早期完成に向け、県に要望活動を実施します。

新規に美野地内の県道豊久田平線の歩道整備の早期完成に向け、県に要望活動を実施します。

5-1-2 道路網の整備と維持管理（町管理道路の老朽化インフラ対策の推進）



●概要

経年により老朽化した町管理道路の補修・更新を、計画的・効率的に推進します。道路沿線樹木の大型木化・過密化、また、老朽化や腐朽による落枝や倒木を未然に防止すべく、土地所有者への伐採協力を求めるなど、計画的な対策を推進します。

●後期計画における重点項目

町道堀広線の自転車歩行者道設置、狭あい道路の拡幅をはじめ、町民ニーズや必要性等を考慮しながら計画的に道路整備を実施します。

●関連事務事業

道路維持事業、交通安全対策事業、狭あい道路整備等促進事業

●関連個別計画

通学路緊急対策推進計画

5-1-3 橋梁の整備・維持管理



●概要

令和5年度までに実施した橋梁点検結果の判定区分に基づき、計画的に補修設計や補修工事を行います。

●後期計画における重点項目

町管理の132橋を5年に1回法定点検を実施しており、今後も橋梁点検で「早期措置段階」と判定された場合は、国庫補助事業を活用して対応します。

●関連事務事業

道路メンテナンス事業

●関連個別計画

橋梁長寿命化修繕計画





5-2 公共交通

●ベンチマーク

指標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)	説明
ふれあいバス利用者数(年間)	5,867人	7,000人	利用しやすい公共交通体系を構築し、利用者の増加を図る。

5-2-1 ふれあいバスの利便性向上



●概要

地域の移動支援と児童生徒の通学支援の双方を担っており、地域交通の基幹的役割を果たしています。一方で、一般利用者数の減少や運行効率の課題が顕在化していることから、運行形態の見直しを進めていきます。

●後期計画における重点項目

関係部署との連携による一体的運行の検討、地域ニーズに即した利便性向上、持続可能な運行体制の構築を重点として取り組みます。

●関連事務事業

公共交通事業、公共交通確保事業



5-2-2 公共交通体系のあり方検討



●概要

公共交通の利便性の向上を目指し、交通ネットワークの最適化を図ります。

●後期計画における重点項目

勝央町公共交通計画を策定し、デマンド交通やライドシェアなどの交通施策を検討・展開します。

●関連事務事業

ふれあいバス事業、公共交通確保事業

●協働機関

中国運輸局岡山運輸支局、一般旅客自動車運送事業者





5-3 移住・定住

●ベンチマーク

指標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)	説明
新築住宅助成件数（累計）	356件	500件	新築住宅建築の補助を行い、移住定住を促す。
空き家バンク所有者登録件数（年）	18件	20件	地域の空き家を減らすとともに、移住定住を促す。
定住希望者相談受付件数	68件	75件	勝央町の魅力を発信し、移住定住を促す。

5-3-1 移住・定住の発信・交流促進（情報発信）



●概要

人口減少という共通課題に対し、津山圏域定住自立圏などの県北全体で連携した取組を積極的に進めていきます。空き家の利活用として「空き家情報バンク」や空き家購入補助・移住補助金など補助金制度を充実させるとともに、「お試し住宅」の利用促進により勝央町への理解を深め移住・定住につなげていきます。また、少子化や晩婚化が進行する中、結婚を希望する人が抱える出会いや経済的負担等の課題に対応し、安心して結婚に踏み出せる環境を整備します。

●後期計画における重点項目

経済、雇用、観光などで連携を深め、圏域全体で移住・定住促進を進めていきます。

特に、高校生との地元企業交流事業、移住・定住ツアーの開催、婚活イベントの開催、インターンシップの開催を進めてまいります。「空き家情報バンク」の充実、バンク関連の補助金の利用促進などを通じて関係人口の獲得及び移住・定住促進を進めていきます。

また、①空き家所有者の掘り起こしを通じて「空き家情報バンク」への登録促進、②空き家購入・改修補助金、片づけ補助金などの充実と利用促進による移住定住促進、③お試し住宅の利用やお試し滞在補助の利用による移住定住促進、④住環境整備のための危険家屋の解体を促す空家等除却事業費補助金を進めていきます。

さらに、少子高齢化の進行と過疎化を防止するために次代を担う若者たちの結婚を支援し、勝央町への定住を促進することを目的とした事業の展開を図ります。

●関連事務事業

津山圏域定住自立圏事業、空き家情報バンク事業、定住促進補助金事業、空き家片づけ補助金事業、お試し住宅運営事業、お試し滞在補助金事業、空家等除却事業費補助金事業、結婚新生活支援事業、ふるさと住民登録事業

●関連個別計画

津山圏域定住自立圏共生ビジョン、空家等対策計画及び所有者不明土地等対策計画

●協働機関

津山圏域定住自立圏市町、津山広域事務組合、各地区

5-4 自治体DX・通信

●ベンチマーク

指標	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)	説明
オンライン手続数(件)	30件	50件	役場に来庁せずに行える手続を増やし、利用者の利便性向上を図る。
キャッシュレス決済比率(%)	19%	40%	多様な支払方法を提供し、利用者の利便性向上を図る。

5-4-1 自治体DX・電子自治体の推進



●概要

情報技術を活用して地域住民や事業者の利便性を高め、正確な情報伝達と円滑な手続が可能な仕組みづくりを推進します。

●後期計画における重点項目

国の「デジタル社会の実現に向けた重点計画」に基づき、優先的にオンライン化を推進すべき手続等の電子化や情報連携の活用を継続的に推進します。

内部手続や管理事務の自動化・電子化を進め、正確かつ効率的に処理できる環境を構築することで、手続全体の時間短縮に寄与します。

●関連事務事業

自治体DX推進事業

●関連個別計画

DX基本方針



5-4-2 情報通信基盤の整備・運用



●概要

光ファイバー網や公共施設の無料Wi-Fi等の情報基盤の安定運用と活用を通じて、地域住民の生活や利便性の向上に寄与します。

●後期計画における重点項目

情報基盤の定期的な点検保守等、安定運用に努めます。

平時無料開放やそれを用いた新たな町民サービスの提供など、各公的拠点Wi-Fiによる住民の文化活動・生涯学習活動その他生活の利便性の向上を図ります。

●関連事務事業

超高速ネットワーク事業

●関連個別計画

情報通信基盤維持管理計画

